



TITLE:

まえがき

AUTHOR(S):

吉田, 義則

CITATION:

吉田, 義則. まえがき. 技術室報告 2010, 11: iv-iv

ISSUE DATE:

2010-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/233411>

RIGHT:

まえがき

技術室長 吉田義則

はじめに、この技術室報告 11 号の執筆に携われた方々、およびこの編集にあられた方々の労に深く感謝いたします。

今年度は藤原清司技術職員と私（吉田）の二人が定年退職となります。藤原清司氏は昭和 43 年 4 月に、宇治川水理実験所（現 宇治川ラボラトリ）に採用され、同氏は長年にわたり水理実験・大型実験装置の運転・メンテナンスおよび施設管理などに携わってきました。永年のご研鑽とご貢献に対して敬意をはらいつつ、今後、ますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。吉田は昭和 43 年 4 月に砂防研究部門（現 流砂災害研究領域）に採用され、定年を迎えることになりました。来年度からは再雇用を希望していますが、微力ながら技術室を支えるように頑張りますのでよろしくお願い致します。

今年度から技術室も 4 班 8 掛から 4 技術グループとなり新たなスタートとなりました。これからの技術室がどのようなになるか期待しています。いよいよ来年度の園田技術職員（宮崎）の退職で団塊世代がいなくなり技術室も若返ります。今年度は、隔地観測所（桜島・白浜・穂高）に 3 名、宇治地区に 1 名の新規採用を迎え技術室も変わりつつあります。これからの技術室は、少ない人員のなかでいかに技術支援を行っていくかを各自が考えながらオーバーワークにならないように上手く調整しながら進めていかないと短期支援が滞ることになり支援が出来ない状態が生じるかも分かりません。仕事によっては忙しい人が偏る場合が生じるかも分からないのでお互いに補助できるような体制で支援できればいいのではないかと思います。

これからは、技術室の置かれている状況を特定の支援にとらわれず物事を見たり考えたりしながら、教員から何を求められているかを考えつつ支援するように努めることが大事です。

また、稼働している観測機材には経験を必要とする機材も多々あり、再雇用の方々にはこれまでの経験と技術を生かし、後継者への引き継ぎならびに更なる精度向上に向けた観測、研究支援をよろしくお願い致します。

最後になりますが、皆様からの支援にお応えできるように、技術室としてもさらなる向上を目指して頑張ります。今後とも所長をはじめとする教員の方々、事務部の方々にご理解と一層のご支援をよろしくお願い致します。